

杖 I (基本)



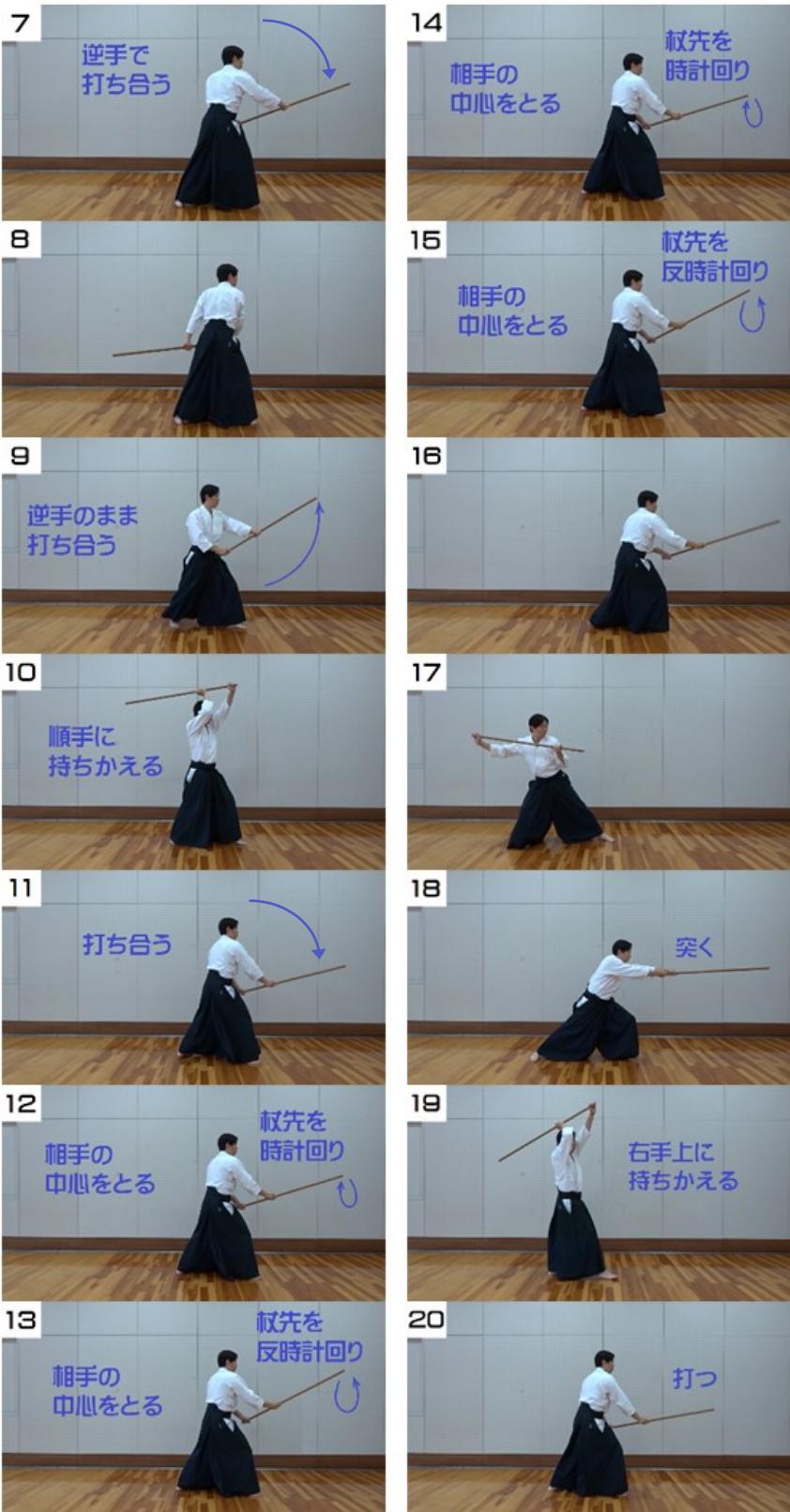
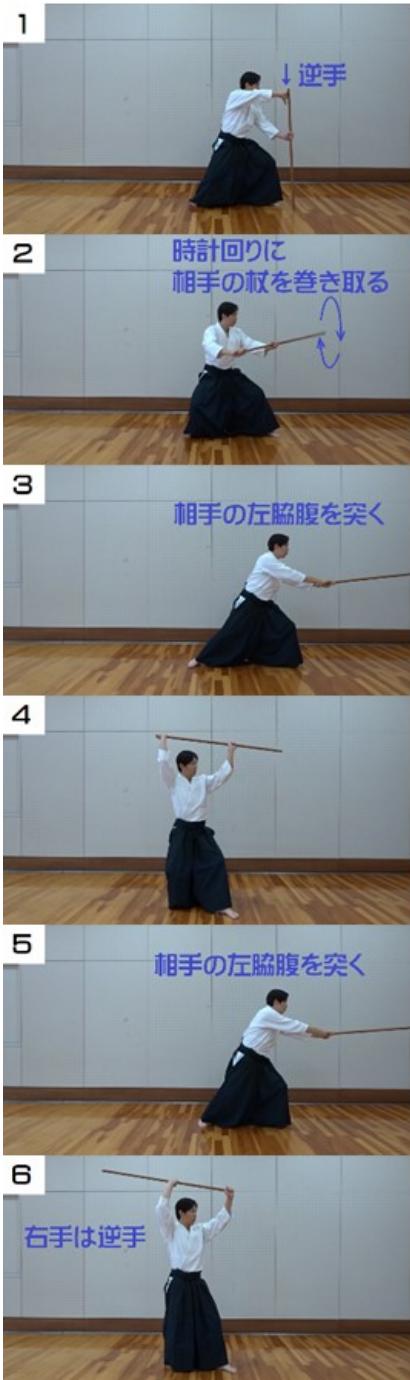
※杖を突く際に手を絞る。相手の打ちを受ける際に杖を頭より高くして杖先は少し下げる。



はっそう
※八双：刀や薙刀などの構えの一つ。八相とも書く。

※杖 I の基本を覚えたら、相あわせ、杖 I B (後手)、杖 I A (先手) とできるようにする。

杖 II (基本)



※杖 I A B の組杖は「打つ、受ける」というリズム。杖 I II の組杖は同時に打ち合う。



<杖の基本>

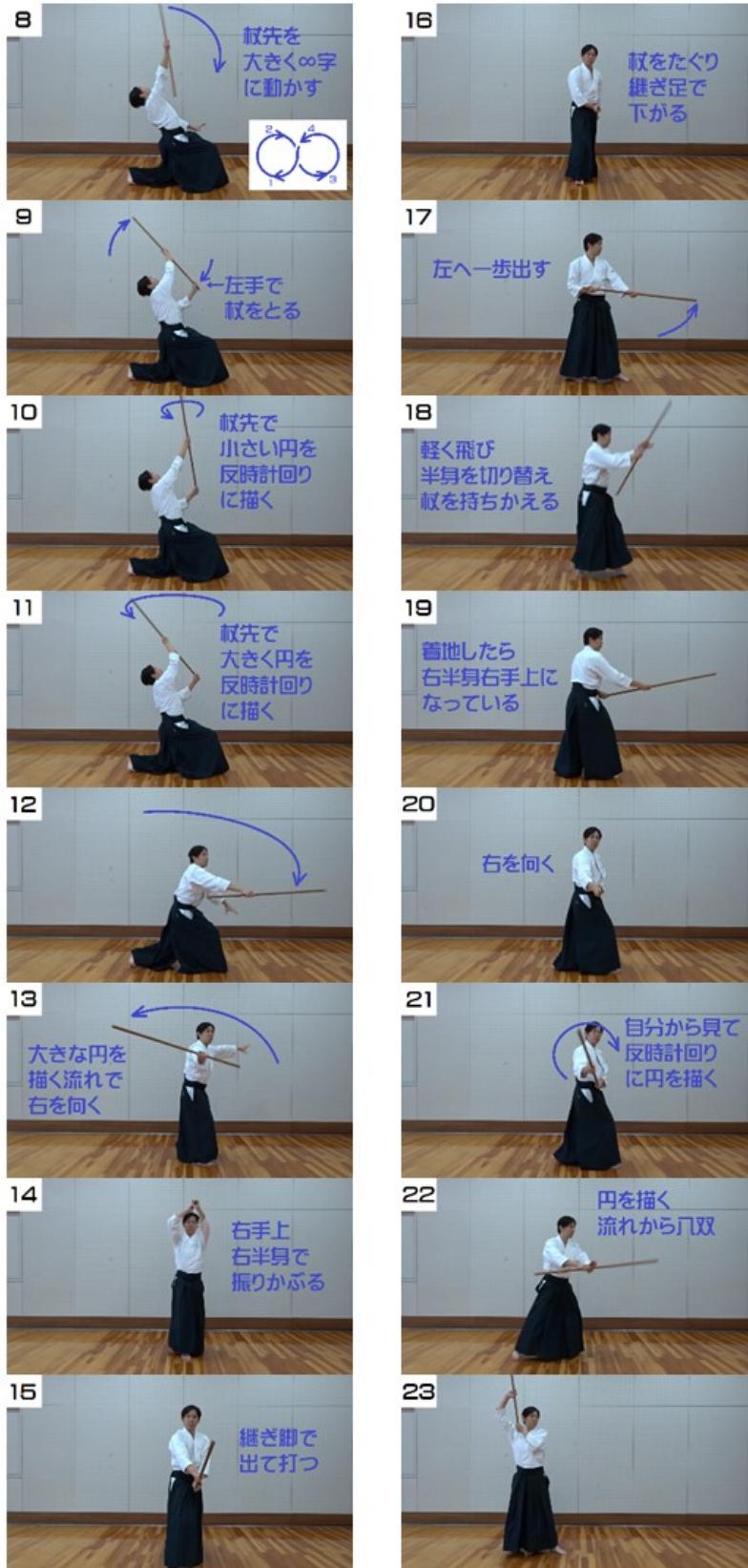
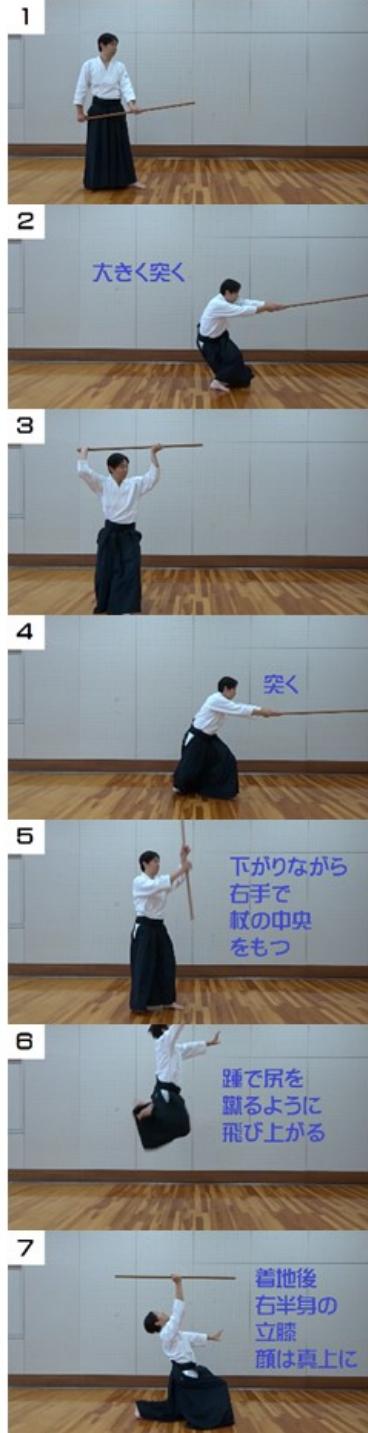
手のひらがピタリと吸いつくように持ります。小指と薬指を締め、杖先が自分の指先の感覚になるようにして振り下ろします。振りかぶる時は、杖先で自分の後方を突くようにします。足幅広く、腰を落とし大きくはっきり動きます。杖を打つとき突くとき下げるときには安定打坐で養った音のない音に同化する感覚で行います。

	組み杖表【杖IAと杖IB】	
	杖IA(先手)	杖IB(後手)
0	杖を床に立てて左手でもつ(一重の左半身)	杖を床に立てて左手でもつ(一重の左半身)
1	左半身でBの左脇を突く	杖を立てたまま突きを捌く(左半身のまま)
2	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く	Aの左脇を突いていく
3	Bの左脇を突いていく	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く
4	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く	Aの左脇を突いていく
5	右手が上になるよう持ち替えて打つ①(右半身)	右へ体を捌き上段で受け(杖先は左向き)
6	左へ体を捌き上段で受け(杖先は右向き)	右手が上になるよう持ち替えて打つ①(右半身)
7	打つ②(左半身)	左へ体を捌き上段で受け(杖先は右向き)
8	右へ体を捌き上段で受け(杖先は左向き)	打つ②(左半身)
9	打つ③(右半身)	右へ体を捌き上段で受け(杖先は左向き)
10	Bの打ちに手の絞りを合わせてBの中心を取る	打つ③(右半身) Aに中心を取られる
11	右足を下げて、杖を下げる(杖が正面から見えないように)	Aが杖を下げるのを待つ
12	右足を出して、Bの杖を横から打ちにいく	右足を下げて、杖を下げる(杖が正面から見えないように)
13	杖を左脇へたぐる(持ち手を継ぐように使う)	右足を出して、Aの杖を横から打ちにいく
14	左足を出しながらAの杖を下から跳ね上げにいく	杖を左脇へたぐる(持ち手を継ぐように使う)
15	そのまま杖尻で突く	左足を出しAの杖尻突きを下から跳ね上げる
16	杖を縦にして体捌きで杖尻突きをかわす(左半身)	そのまま杖尻で突く
17	左半身で杖を突く	杖を縦にして体捌きで突きをかわす(左半身)
18	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く	左半身で杖を突く
19	右手が上になるよう持ち替えて打つ(右半身)	右へ体を捌き上段で受け(杖先は右向き)
20	Bの打ちに手の絞りを合わせてBの中心を取る	右手が上になるよう持ち替えて打つ(右半身)
21	右半身でBの右脇を突く	左後へ下がり杖を巻き上げて捌く
22	左後へ下がり杖を巻き上げて捌く	右半身でAの右脇を突く
23	左足を出して打つ(左半身)	左へ体を捌き上段で受け(杖先は右向き)
24	右へ体を捌き上段で受け(杖先は左向き)	打つ(左半身)
25	下段まで打ち下げて待つ(右半身)	右へ体を捌き上段で受け(杖先は左向き)
26	Bの杖をカーンと跳ね上げる(杖先を少し右に傾けて)	下段まで打つが杖をカーンと跳ね上げられる
27	杖を大きく反時計方向に回しBの足を打ちにいく	杖を大きく反時計方向に回しAの足を打ちにいく
28	左手を持ち替え、右足を引いて八双に構える	Aの八双を待つ
29	順手に持ち替え、右足を出して打つ(右半身)	左手を持ち替え、右足を引いて八相に構える
30	左へ体を捌き上段で受け(杖先は右向き)	順手に持ち替え、右足を出して打つ(右半身)
31	左手に持ち替え下段まで打ち下げる(左半身)	左へ体を捌き上段で受け(杖先は右向き)
32	Bの杖を下から跳ね上げる(杖先を少し左に傾けて)	左手上で下段まで打ち、跳ね上げられる
33	杖を大きく時計方向に回しBの足を打ちにいく	杖を大きく時計方向に回しAの足を打ちにいく
34	右手を持ち替え、左足を引いて八双に構える	右手を持ち替え、左足を引いて八双に構える
35	順手に持ち替え、左足を出して打つ(左半身)	順手に持ち替え、左足を出してAの打ちを払う
36	打ちをBに払われて突かれる <終>	Aを突く(左半身) <終>

	組み杖表 [杖ⅠA' と 杖ⅡB]	
	杖ⅠA'(先手)	杖ⅡB(後手)
0	杖を床に立てて左手でもつ(一重の左半身)	杖を床に立てて左手でもち、右手を逆手にそえる
1	左半身でBの左脇を突く	Aの突きを杖先で時計回りにクルクル巻きとる
2	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く	Aの左脇を突いていく(左半身)
3	Bの左脇を突いていく	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く
4	右後へ下がり杖を巻き上げて捌く	Aの左脇を突いていく
5	杖を振りかぶり右手が上になるよう持ち替える	下がりながら、杖をたぐり逆手のまま振りかぶる
6	右足を出してまっすぐ打ちあう①(右半身)	逆手(右手)のままで打ちあう①(右半身)
7	足を引いてまっすぐ振りかぶる ※杖1.2組杖は杖を回し打たない!	杖を左脇下段へたぐる
8	左足を出してまっすぐ打ちあう②(左半身)	左足を出し逆手で下から杖を振り上げ打ちあう②
9	足を引いてまっすぐ振りかぶる	振りかぶって右手を順手に持ち替える
10	右足を出してまっすぐ打ちあう③(右半身)	順手(右手)でまっすぐ打ちあう③(右半身)
11	右足を下げて、杖を下げる(杖が正面から見えないように)	Aが杖を下げるのを待つ
12	右足を出して、Bの杖を横から打ちにいく	杖先を時計回りに回しAの杖を捌き中心を取る
13	杖を左脇へたぐる(持ち手を継ぐように使う)	Aが杖をたぐるのを待つ
14	左足を出しながらAの杖を下から跳ね上げにいく	杖先を反時計回りに回しAの杖を捌き中心を取る
15	そのまま杖尻で突く	杖先を時計回りに回しAの杖を捌き中心を取る
16	杖を縦にして体捌きで杖尻突きをかわす(左半身)	すぐに杖先で突く(右半身) ※4回目のクルッが突きにかわっている!
17	左半身で杖を突く	右足を引いて大きく下がり突きを捌く(左半身に)
18	右後へ下がり突きを捌く(左半身)	左半身で杖を突く
19	右手が上になるよう持ち替えて打ちあう(右半身)	右手が上になるよう持ち替えて打ちあう(右半身)
20	そのまま杖先で突く(右半身)	少し下がりながらAの突きを跳ね上げる(右半身)
21	右足を引いてまっすぐ振りかぶる	振りかぶり左手が上になるよう持ち替える
22	左足を出しまっすぐ打ち合う(左半身)	左足を出しまっすぐ打ち合う(左半身)
23	まっすぐ振りかぶりすぐ下段まで打つ(右半身)	振りかぶりながら左足を大きく引き下がって捌く
24	下段で待ちBの杖打ちをカーンと跳ね上げる	右半身で前へ出てまっすぐ打ち跳ね上げられる
25	杖を大きく反時計方向に回しBの足を打ちにいく	右手だけで杖を反時計方向に回しAの足を打ちにいく
26	左手を持ち替え、右足を引いて八双に構える	右足を引きまっすぐ振りかぶり右手に持ち替える
27	順手に持ち替え、右足を出して打ちあう(右半身)	右足を出して打ちあう(右半身)
28	まっすぐ振りかぶりすぐ下段まで打つ(左半身)	振りかぶりながら右足を大きく引き下がって捌く
29	Bの杖を下から跳ね上げる(杖先を少し左に傾けて)	右手上で下段まで打ち、跳ね上げられる
30	杖を大きく時計方向に回しBの足を打ちにいく	左手だけで杖を時計方向に回しAの足を打ちにいく
31	右手を持ち替え、左足を引いて八双に構える	左足を引いて杖を左脇下段にたぐる
32	順手に持ち替え、左足を出して打つ(左半身)	左足を出して下からAの打ちを払う
33	打ちをBに払われて突かれる <終>	杖尻でAを突く(左半身) <終>

杖 和歌山演武

(1952年大先生演武)



※ 植芝盛平翁が1952年に和歌山県で演武されたときの杖です。